

獄 中 記

<福山辰夫>

第六回

皇紀 2653 年【平成 5 年・西暦 1993 年】

7月16日(金)

昼餉後、午後 12 時 30 分から 12 時 50 分迄、「刑務作業安全月間」の一環として『作業安全ビデオ』を工場食堂に備え付けてあるテレビで視聴。労働基準監督署に労災として報告される『作業事故統計』から見ても、大きい災害事故を起こす迄には、何度も何度も「ヒヤリハット」という事故にはならないものの、一步間違えれば大事故に繋がってしまうというような経験を誰もがしているという。況してや、災害事故が起きやすい時間帯として「終業間際」の 30 分前位が、一番多いと出ている。だから、その「ヒヤリハット」を各自が職場に於いてレクチャーをして意見共有をする。それをベースに、将来起こるかも知れない作業事故を未然に防ごうという試みである。

だから当刑務所に於いても、始業時と終業時に「指差し呼称」を工場担当の指示に従い行っている訳だが、刑務作業によっては大怪我をする職場もあり、決してワープロ作業だからといって舐めてはいけない。『注意一秒、怪我一生』

7月20日(火)

午前中に、面会有り。川越から両親が来仙。此处最近は、急に 2 人とも急激に老けたように感じる。これ全て小生が心労ばかりを掛け続ける所為であって、終了後、面会室を出る 2 人の後ろ姿に首(こうべ)を垂れる。帰り際に、差し入れ本(3冊)と売店にて面会人が購入をして、窓口で即差入れをするスポーツ紙『日刊スポーツ新聞』(3か月分)の差入れをして貰う。

こんな馬鹿な倅の為に、何時もすみません。感恩！

7月23日(金)

『圖南書道會』に提出する「月例競書」を工場担当経由で、教育課宛に提出する。

また、会計課より連絡があり所持している私本の領置冊数が多いとの指導を受け、次回の面会時に不要物品の宅下げをする事を条件とし、『宅下げ願』を会計課長宛で提出する。

7月28日(水)

今月の14日に引き続き、「薬物乱用防止月間」のテレビVTR視聴が有り。午後18時30分から7時迄の30分間程、『コカイン』の啓蒙ビデオを舎房備え付けのテレビにて視聴する。

7月29日(木)

今日は年に一度の「集団検診」が実施され、講堂のグラウンド側扉前に停めた移動レントゲン車の中で、『胸部X線撮影』が行われる。唯、小生の場合は2年前に「結核性胸膜炎」を患った事から、医師の指示により6か月毎に、所内で『胸部X線撮影』を行っているので除外。

しかし、全員で講堂へと移動する為、受診をする、しないに関わらず小生も他囚と共に作業を止めて、整列・行進をして講堂へと移動。

7月30日(金)

作業を終え還房後は、工場区の定期私本配布日に付き、購入の週刊誌1冊、月刊誌1冊と下付を願い出していた『三国志(7)』(吉川英治著・講談社)、『劇画 小説吉田学校 16巻』(原作：戸川猪佐武、さいとうたかを・読売新聞社)の2冊が手元に届く。

7月31日(土)

今季の「梅雨」は全くどうなっているのか？

明日からもう8月になるというのに、未だに『梅雨明け』(※宮城県は、東北地方南部の括りとなる)とならない。昼間のラジオ放送でも「今季は、何日といった日時指定は行わず、7月下旬に梅雨が明ける…」と、何やら曖昧なる発表に留まる。

予想とはいえ「仙台管区气象台」がそう言っても、此処「みちのく仙台」は、未だに梅雨明けどころか今日もじめじめと鬱陶しく、肌寒い陽気が続いているのである。

8月6日(金)

獄(ひとや=人屋)とは、冷えたコンクリートの建造物に囲まれた世界であって舎房内も薄暗い。

一概にその所為かどうかは判らないが、宮城刑務所に入所してからめっきりと近視が進行して

いる感があり、事前に『検眼願』願箋を医療課長宛に提出していたのである。漸く、昨日の午後に小生が呼び出され、医務本所の検眼室で「検眼」を行い、「メガネフレームとレンズ」を購入。

従って、本日付で『領置金支払願』、『領置金使用願』の願箋2枚を会計課長宛に提出。

購入代金は、「37,800円也」。また、今夜は『仙台七夕まつり』の前夜祭ということで、夜のテレビ視聴をしていると20時過ぎ頃、直ぐ近くの広瀬川河川敷から「打ち上げ花火」が上がる。

前夜祭のクライマックスに仙台の夜空を彩るのが、この打ち上げ花火との事で、高塀に囲まれた獄窓からはどうやっても、その光景を見ることは出来ない。だが、打ち上げ花火の音だけが闇夜に轟く様(さま)は、獄(ひとや)に暮らす旅人(たびびと)らに故郷というものを思い出させてくれる。

8月8日(日)

午前9時30分から10時30分迄、宗教行事『盂蘭盆会』が講堂にて催され出席。

臨済宗僧侶の読経により、刑務所側の代表者として教育課長と受刑者代表として1級生1名が舞台上上がり、中央に設置してある祭壇に向かって拝礼を行う。その後は、僧侶の法話となり『盂蘭盆』の意味等について有り難い話を拝聴致す。昼餉後は、13時から15時迄「午睡時間」。

横臥許可となっているが、夕点検迄、机に向かい「臨地」(りんち=書道)に勤しむ。

8月9日(月) 反ロシアデー

圖南書道會の「平成5年第二期漢字部昇位試験」の受験料「3,000円」を支払う為、『受験願』(教育課長宛)と『領置金支払願』(会計課長宛)の願箋2枚を工場で記載をし、工場担当の板橋看守部長に提出する。

本日、国会では首班指名が行なわれ、先の7月29日(木)に行われた「社会・新生・日本新・公明・さきがけ・民社・社民連」の7党と、参議院の「民主改革連合」を併せた8党派の党首会談の合意により『第79代内閣総理大臣』に日本新党代表の細川護熙が指名され、『細川内閣』が発足。世は連立政権時代の幕開けとメディアは煽っているが、思想信条が余りにも違うのと所詮は寄せ集め集団であるという事。今後我国の政治は、益々混迷を極めるばかりではないかと一抹の不安有り。世紀末を迎えるにあたって「先行き不透明の感あり」。

8月12日(木)

工場定期発信日に付き、妻宛に便りを認める(便箋7枚)。亦、仙台管区气象台の発表によると

「東北地方南部」が、今日「梅雨明け」をしたとみられると報じる。しかし、8月に入ってもどんよりとした天気ばかりが続き、発表を受けても梅雨が明けたという実感が湧かない。

8月13日(金)

お盆の連休に入る。午前中は9時から11時30分迄、舎房にてテレビ視聴有り。『釣りバカ日誌4』（配給：松竹。1991年公開。出演：西田敏行、石田えり、尾美としのり、佐野量子、中本賢、戸川純、内海和子、谷啓、笹野高史、加藤武、三國連太郎ほか。監督：栗山富夫）。

念願かなって目出度く懐妊したみち子（石田えり）さんだが、定期検診に付き添い出産も立ち合う伝助（西田敏行）は、例によって仕事は二の次である。伝助と鈴木一之助（三國連太郎）の良き仲間である『太田丸』船長・太田八郎（中本賢）は、しっかり者の妹・町子（佐野量子）と幸せな日々を兄妹で過ごしている。一方、一之助の甥の和彦（尾美としのり）は、仕事より趣味に生きるといったハマちゃんに憧れ、浜崎家に入出入りをするうちに、町子と交際を始める。

それが気に食わない八郎は和彦と大喧嘩になり、その兄に反発した町子は和彦と駆け落ちをしてしまう…。何時ものドタバタ劇となるも、最後は落ち着くところに落ち着く。今回の舞台は、和歌山県日高郡由良。午後は13時から15時迄「午睡時間」も横臥をせずに、夕点検迄「臨地」に勤しむ。

8月14日(土)

お盆の連休2日目。今日も午前中はテレビ視聴有り。『ネイビーシールズ』（製作国：米国。配給：オライオン・ピクチャーズ。1990年公開。出演：チャーリー・シーン、マイケル・ビーンほか。監督：ルイス・ティエグ）。米国海軍の特殊部隊である「Navy Seals」を題材にした映画。総集行事だったので、強制的視聴となる。（*総集行事＝一般行事であれば、余暇時間としての扱いになるが、「総集」がつくと強制的に参加・視聴をせねばならず）。午後は、今日も午睡をせずに「臨地」に勤しむ。

8月17日(火)

連休明けに、7月分の賞与金教示有り。「5等工+3割増」=2,621円也。漸く、5等工になる。

8月25日(水)

圖南書道會に『平成5年第二期漢字部昇位試験』の第四部課題作品（「九成宮醴泉銘・唐」半紙臨書）1点を、工場担当を通じて教育課に提出する。

8月26日(木)

午前中は、ワープロ作業に従事する。但し、今日は午後12時30分から13時30分迄『書道教室(4班)』に出席する。刑務作業中は、常に工場設置の監視カメラと警備隊の巡回で余所見も出来ない圀圍(れいご)の中(うち)も、この時間だけは書の手解きを受けるという名目で、講師である「鈴木登郁先生」と和気藹藹の一時を過ごす事が出来るのだ。

8月27日(金)

月末の金曜日にて、工場定期私本配布日に付き、購入の週刊誌1冊と月刊誌1冊。また、領置下付本として『三国志(5)』(吉川英治著・講談社)、『劇画 小説吉田学校 13巻』(原作:戸川猪佐武、さいとうたかを・読売新聞社)の2冊が届く。

9月4日(土)

免業日も、午前中は『陸上自衛隊東北方面音楽隊』による慰問有り。去年も5日に来所したメンバーによる演奏で、指揮者である陸自3佐の隊長は変わらず。何故、軍隊に音楽隊?と思うかも知れないが、これはこれで観閲式・国賓等を迎えた時に必要な存在なのである。

9月7日(火)

早いもので、『平成5年度後期一般学習・私費通信教育課程』にて『圖南書道』の受講許可が下りた事から、受講料(6ヶ月分)「3,600円」を領置金で支払うべく『領置金支払願』願箋を記載し、提出する。

9月9日(木)

工場定期発信日に付き、妻宛に便りを出す(便箋7枚に、近況報告)。

9月11日(土) 運動会

免業日ではあるが、朝から『宮城刑務所大運動会』が催される。病み上がりで、今ひとつ体調が本調子と迄かない小生は、今年も第8分区(10・13工場連合=印刷工場)の一員として、応援合戦のみで競技には参加せず。今回は、同じ印刷工場で分区を組む10工場から地元仙台のTさん(住吉会西海家藤川会系)が応援団長となり、我々世代が幼少の頃に流行ったTVアニメ『巨人の星』の主題歌「行け行け飛雄馬」の替え歌を全員で唱和する。

昨年は13工場の無期懲役+13年の2刑期を務めるN氏が団長をやり、『月光仮面』のパフォーマンスで「優秀賞」を受賞したが、残念乍ら「分区対抗応援合戦」は、第1分区（1・2工場連合＝木工場）が「優秀賞」に輝く。「総合優勝」は第6分区（8・12工場連合＝製靴工場、洋裁工場）で、花形競技で最後の種目「分区対抗リレー・決勝」では、12工場のTさん（岩手県一関市出身、松葉会上萬一家系）がアンカーを務めて分区リレーを制す。

尚、分区リレーの決勝が始まる前迄、競技得点トップだったのが第1分区で、分区リレー優勝の得点が加算されたことにより、6分区が大逆転で総合優勝となる。Tさんに限らず、同囚達の声援を背に受けて直向きに取り組む姿は、ある意味感動を呼ぶものだ。終了後は、洗身。

還房して副食として「袋菓子の詰合せ」の給与有り。

9月13日(月)

1912年(大正元年)の今日、青山練兵場に於ける『明治天皇大喪儀』にあたり、乃木希典大將が赤坂の自邸にて妻の静子夫人と共に殉死する。

うつし世を神さりましたし大君の みあとしたひて我はゆくなり

—乃木希典辞世—

武士(もののふ)とは、自らの生死を決するに、

己が仕えたる主君の為に忠義を尽くし奉げるもの也。「男で生きたい、男で死にたい」。

『湊川の戦』で足利尊氏軍との戦(いくさ)に敗れ、死を覚悟した楠木正成(大楠公)は、弟の正季(まさすえ)と自刃をする際の会話で「七生報国」、「七生滅賊」という言葉を残したが、戦後の平和ボケした今に生きる日本人に改めて問うてみる必要がある。

9月14日(火)

8月分の賞与金教示有り。「5等工+4割増」=2,576円也。

9月16日(木)

昼餉後は、午後12時30分から13時30分迄『書道教室(4班)』が行なわれ、出席する。

9月19日(日) 糸瓜忌

免業日も、午前9時30分から10時30分迄、講堂に於いて『彼岸法要』が催され、出席する。

法事は、「真宗大谷派」の僧侶による読経と30分間の法話を拝聴致す。「西方浄土には、極楽があるとされている」が、死んだら皆、仏という親鸞聖人の教えは『他力本願』という阿弥陀如来の本願、つまりは衆生救済、極楽往生を得ることである。秋と春にある彼岸だが、こういった機会に各人が祖先に思いを寄せ、そして、生あることに感謝の念を表す日にしても良いのではなかろうか…、と仰っていた。また、本日は『糸瓜忌』(へちまき)とあって、俳人であり歌人、国語研究家の正岡子規の命日でもある。

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

—正岡子規—

俳句革新、短歌革新を行い「写生論」を提唱。近代文学に多大な影響を及ぼした御仁也。